

福島大生と 思いを1つに行動を1つに 原発再稼働とめよう! 11・6集会へ

原発を止め、大学を変えるために福大生と法大生が熱く結合!



10月28日、被災地福島からあらゆる困難を越えて福島大学生が法大に駆けつけてきてくれました! この日は第3派法大包围デモと文科省申し入れ行動と原発を止めるための1日行動を福大生と法大生がともに行いました。当日参加した福大生の一人は「ネットで法大闘争を見ていた。ずっと文化連盟・全学連に会いたかった」と述べ、別の学生は「10月21日に法大生が福大に来てくれたから」と言って行動に参加し、福大生×法大生の熱い連帯が生み出されました! 2006年以来、学生運動つぶしに負けずに闘い続けた法大闘争と3.11以来、キャンパスでの原発反対の行動があった

からこそ、福島大生と深く強く結びつくことができました。法大生に向けて、当日参加した福島大生からメッセージが届いています。ぜひ読んでください(裏面)。

文科省は学生の被曝の現実に関心がない

10月28日の文科省申し入れ行動が明らかになったことは、文科省は学生の置かれている現実など全く興味がないということです。福大生の「安心して大学に通うことができない」「学生を被曝させない立場にいるのか?」という渾身の叫びには一切答えず、「線量は下がっている」「対策は行っている」と福島大の現実とは真逆の回答をくり返すばかりでした。彼らは(原発事故)「収束」キャンペーンとともに野田政権の原発再稼働を支えているのです。



10月28日法大デモ後に文科省申し入れ

11・6

**すべての原発ただちに止めよう!
民営化・外注化阻止、非正規職撤廃!**

反原発・反失業の国際統一行動を! 国鉄1047名解雇撤回! 非正規職撤廃!
新自由主義とたたかう労働組合の全国ネットワークを!

全国労働者総決起集会

11月6日(日)正午/東京・日比谷野外音楽堂
※午後3時半からデモ出発(東京電力前で抗議行動を予定)

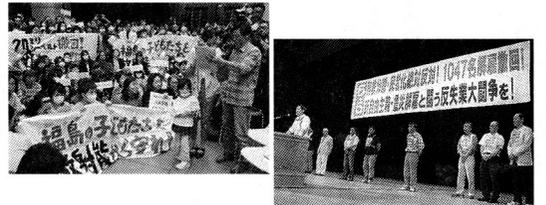
海外の代表団が来日

【韓国】民主労総ソウル地域本部
【アメリカ】国際港湾倉庫労働組合(ILWU)
ドイツ・ブラジルの代表も来日



フクシマの怒り! 被災地からの報告

子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク
(中手聖一代表が発言予定)
自治体労働者・教育労働者・農民・医師
被災地で奮闘する労働組合の報告を中心に
すべての原発いまずぐなくそう! 全国会議



たたかう労働組合を時代の最前線に

全日建運輸連帯労組・関西地区生コン支部
全国金属機械労働組合・港合同
国鉄千葉動力車労働組合
国鉄水戸動力車労働組合 ほか

1047名解雇撤回-非正規雇用撤廃の闘い

国鉄闘争全国運動の呼びかけ人
国労闘争団、動労千葉争議団

農民・弁護士・労働組合・若者・学生の発言、音楽や韓国の律動などのパフォーマンスも

<呼びかけ>全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部/全国金属機械労働組合港合同
国鉄千葉動力車労働組合/国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動

午前10:30~ 原発とめて! 非正規なくして! 11月6日(日)午前10時30分 日比谷野音
うちら99%で社会ひっくりかえそーぜ!!!若者大集会

関連企画 11・5 労働者国際連帯集会 11月5日(土)午後1時



全日本学生自治会総連合(斎藤委員長)
mail_cn001@zengakuren.jp http://www.zengakuren.jp/

このような文科省の下、法政大学も抗議する学生への処分・逮捕は「学生の安全のため」、飲酒規制や高い学費も「学生のより良い教育環境のため」と言う一方で学内のホットスポットを放置し、学生を今も被曝させ続けているのです。

再稼働・TPP・新基地建設・・・野田政権は「経済」という言葉で利益を守り抜こうとしているだけ



10月28日経産省座り込みデモ前で福大生アピール

野田政権の正体は日々ますます明らかになってきています。「経済のため」という言葉でどんなに私たちをだまそうとしても、目の前の現実はその言葉がウソであることを証明しています。原発再稼働、TPP、沖縄新基地建設、「復興特区」・・・結局すべては一部の資本家の金儲けと利権争いのための政策じゃないか！ 野田政権は「経済」という言葉で自らの腐った

利益を守り抜こうとしているだけです。

社会を根本から変えたい！

こんな社会は根本から変えたい！そのカギを握っているのは私たち自身です。ホットスポット問題は、文化連盟が暴露し、多くの学生がそのことに注目したことによって、学生の怒りの爆発を恐れた法大当局を動かし、ともかくも「除染」をせざるをえなくさせたのです。私たちがみんなで勇気をだして声を上げれば、大学だろうが、文科省だろうが、国家だろうが、世界だろうが変えることができる！

学生の未来はここにある！ 11・6集会へ！

現に、世界は変わろうとしています。ギリシャは労働者によって一部の官庁が占拠され、富裕層は逃げだしはじめています。アメリカのウォール街のデモは全世界に拡大し、多くの人々が社会の本当の主人公は「99%」であることに気付き始めました。

私たちがアメリカやギリシャの学生のように、労働者と団結してこの社会のあり方をひっくり返す決断をしたとき、未来へ向かって道が開けるのではないのでしょうか。日本全国・全世界から集まる闘う労働組合と共に、社会をひっくり返す11・6集会へ、すべての学生の参加をよびかけます。



ギリシャゼネスト 学生先頭のデモ

なかなか行動に踏み込めない葛藤から

視野が広がった

福島大学の学生です。今、福島大学には大学側からは発表されていない放射線量が高いホットスポットがあります。しかし、大学側はそれに対しては何の発表も行わず、除染についても「準備はしている」というような曖昧なことだけしか言わず、今まで何もせずに学生の被曝を見て見ぬふりしてきました。ですが、今の福大生の現状はそういった環境の中で家族や自分、周りの人たちへの健康への影響、危険を感じながらも、考えると怖くなる、不安になるというようなことがあります。放射線の影響をなるべく考えないようにごく普通の生活に戻ってしまいつつあると思います。また、そのような大学の対応、大学側から学生に対してまったく説明がないJAEA(原子力開発機構)との提携などに対して声を上げようにも、自分ひとりだけでは何もできないのではないかと、大学や周りからの目が変わるのではないかと、などといった壁があり、なかなか行動に踏み込めないというような葛藤があると思います。しかし私は最近、全学連の方と交流し学習会に参加させていただいたことで、視野が広がり日本の政府の政策や社会、世界経済、大学が抱える様々な問題を知ることができました。

全国のたくさんの人の力が集まれば国を動かすことができる

28日、29日に経産省前の「原発いらない福島の人たちの座り込み」に参加して、デモに集まった人々の多さを目にし、たくさんの人のマイクでの発言を聞き、自分と同じように原発を絶対に再稼働させないという考えを持った人はたくさんいるという事が感じられて、とても勇気づけられました。また、28日に参加させていただいた「文部科学省申し入れ」では、申し入れ書の事項に対しての機械的な対応、ずさんな調査や把握の仕方などを聞き、被災地の現状や住民の気持ちは政府にはまったく伝わっていないと強く感じました。しかし、自ら質問をぶつけて「福島大学には除染を行うよう強く要請があったと伝える」という回答をいただくことができ、行動することの有意義さを認識でき、全国のたくさんの人の力が集まれば国を動かすことができるという手ごたえを感じる事ができました。

政府にインパクトを与えるには、もっと多くの人が必要

学生にはこの社会を変える力がある

11月6日の日比谷野音での活動を成功させ、政府や人々にさらにインパクトを与えるものにするためにはもっと多くの人が必要になります。28日、29日の活動に参加して私たち国民、学生にはこの社会を変える力があることを再認識しました。被災地からの人の声は特に重要なものになるはずですが、それを打ち破って、原発から最も近い大学である福島大学と一緒にもっと声を上げましょう！

